

摂食嚥下チーム



摂食嚥下障害とは

食べること、飲み込むことの障害のことで、上手く食べられない、飲み込めない状態を「摂食嚥下障害」といいます。口から胃にいたるところまでのいろいろな部分の問題で起こってきます。その方の状態によって症状は様々です。食べるとむせる、形があるものをかんで飲み込めない、食事に時間がかかる、食べると疲れる、食後に痰が出る、食事を摂ると声が変わる、食べ物が口からこぼれる、飲み込んでも食物が口の中に残る、食べ物がつかえる、などで嚥下障害があることに気がつくことがあります。

食べ物が肺に入っておこす肺炎や食べ物による窒息など生命に危険を及ぼす可能性のほか、低栄養による体力・免疫力の低下、食べる喜びも失われます。

このように私たちが日常生活を送る上で欠かすことのできない、“食べる”“飲む”こと、つまり“口から食べる”を様々な角度から支援し、障害のある方がよりよい生活を送ることができるように支援します。



摂食嚥下チームの構成と取り組み

摂食嚥下チームは、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、看護師、介護士、栄養士などで構成され、それぞれの専門性を活かして多職種で患者様・利用者様をサポートしています。

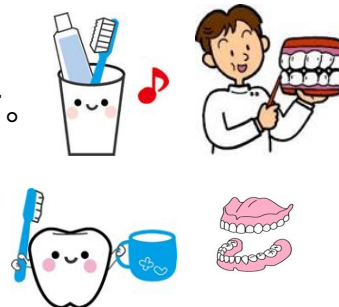
単に飲み込めるかどうかだけではなく、①食べられる口づくりやいつまでも噛んで食べ続けられる口を目指すこと ②食事の姿勢や動作などを含む食事に関するあらゆる環境をより良くすること、③スタッフや患者様・利用者様に対する教育や啓発活動、これらについても力を入れて取り組んでいます。



摂食嚥下チームの主たる活動

① 口腔ケア強化ラウンド

多職種で、口腔内の状態や歯磨きなどの確認を行い、いつまでも美味しく噛んで食べられる口づくりを目指す。



② 食事環境改善ラウンド

多職種で、食事姿勢・動作・嚥下など食事に関するあらゆる環境の確認、検討を行う。



③ スタッフ教育及び患者・利用者様教育のための勉強会開催



いつまでも、美味しく、安全に食べることができるよう、食事の楽しみや生きがいを追求し、食を通して患者様・利用者様の尊厳・復権を大切にします。

栄養サポートケア委員会の取り組み・摂食嚥下チームの活動